

平成二十九年年度 滋賀県立彦根高等学校特色選抜 小論文

注意

- * 答えは、縦書きとし、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。
- * 字数には句読点も含みます。
- * 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- * 2の答えは、原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受検番号

次の文章をよく読んで、後の1、2の問いに答えなさい。

まず自分の頭で考えることが重要です。でも、それには限界があります。自分の持っている知識には限りがありますし、時には、考えていると思っても、同じところをぐるぐる回っているように、同じようなことばかり考えていて、少しも前進していないことがあります。

だから、時には、他の人にいっしょになって考えてもらわなければなりません。そのためには、誤解を招かないように、きちんと具体的に伝えるために、「自分の言葉で自分の意見を言う」ことが大事なのです。そうすることによって初めて、他の人に、興味を持ってもらって、いっしょに考えてもらうことができるのです。

ひよつとしたら、とんでもない勘違いをしていて、そのことを指摘され、それまでの研究が水泡に帰するようなこともあるかもしれません。しかし、それはそれで受け入れる必要があります。悲しいかもしれませんが、あのまま続けても無駄な時間を費やすばかりだった、ちゃんと教えてもらってよかった、というくらいの太っ腹な姿勢が大事です。合理的に考えると、そうすべきだということがわかるでしょう。もちろん、よほどのことがない限り、そんなひどい状況にはなることはないはずですが。

科学者というのは、基本的に好奇心が旺盛で、他人の研究にもちよっかいを出したがる人たちです。だから、多くの場合、いっしょになって考えてくれます。しかし、これは、必ずしも、その人の脳みそをお借りするということを意味しません。ある人が、これまで考えていたことを快刀乱麻のごとく解決してくれることがあるかもしれませんが、そんなことはめったにないはずで、それに、自分で一生懸命考えてきたことを相談して、すぐに解決されてしまったりしたら、それまでの自分がアホやったということですから、イヤですよね。

それよりも、同じことを、違った側面から考える視点を与えてもらうためにディスカッションをするのです。当たり前のことですが、自分は自分の考えに染まりきっています。そこへ、違う刺激を与えてもらって、自分の考えを方向転換させたり、バージョンアップさせたりすることが重要なのです。

ワトソンとクリックという有名な科学者の名前を聞いたことがあるかもしれません。遺伝情報を蓄積している分子であるDNAが二重らせん構造を持つているということを見つけた二人で、これは20世紀における生命科学の最大の発見ともいわれるほどの大成果です。この二人は、自分で実験したのではなくて、いろいろなデータをああでもないこうでもないディスカッションするだけで、大発見をなしたとげたのです。おそらく、この二人が出会わずに一人ずつで考えていたら、二重らせんの発見は、何年か遅れて他の人が成し遂げていたことでしょう。

残念なことに、日本人は、ほんとうの意味でのディスカッションが苦手なようです。しかし、科学の世界ではもつとドライであるべきです。欧米の研究者を見ると、けんか腰で相手の考えに対して非難めいたことを言っている、その討論が終わったら、けろつとして仲良く話したりしています。

(仲野徹『科学者の考え方―生命科学からの私見』より)

1 筆者はディスカッションをすることによどのような意義があると考えているか、八十字程度で答えなさい。

2 傍線部のようになる理由を、あなたの体験または具体例をまじえて、百六十字以上、二百字以内で述べなさい。